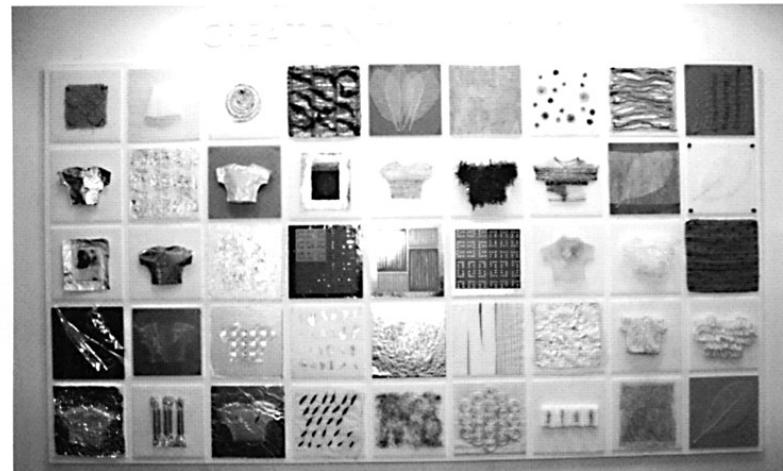


今、私たちは混迷の20世紀末と21世紀を結ぶ2000年を目前にしています。新しいミレニアム(千年期)への期待と不安を胸に、T.D.Aは、2000年のテキスタイル・クリエーションのためのトレンドをまとめました。このさやかなトレンドが、あなたの創造の小さな翼になれば幸いです。

CREATION・TRENDS 2000 『リアライズ／自分へのまなざし』

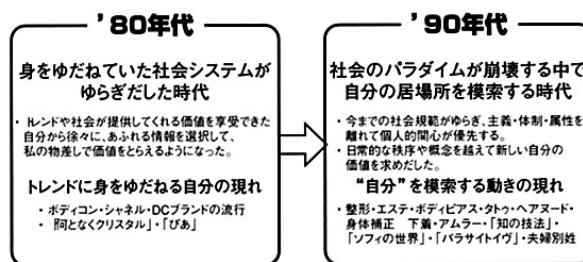
— 2000年に求められる「自分」を支えるテキスタイル —



80年代から現在に至る時代の潮流は、個人の生活意識が、これまで守られ、あるいは、支えてきた社会システムから離れて「自分」の居場所を求める動きといえます。70年代に至る道は、高度経済成長のかけ声のもとでの欲求の充足の時代でした。所得倍増、3C、輸入品など、求めるモノ、欲しいモノが得られる現実として存在しました。“テキスタイル”も時代とともに、その高みと広がりを獲得してきました。しかし、現在、人は何を求めるのでしょうか?エスニックの流れは日本のみならず世界中のテキスタイルを既知のモノとし、海外の高級ブランドはその国や地域での伝統に裏付けられた技と質で現在に勝ち残ってきた唯一無二のモノとして、身近な購入の対象になっています。このような“テキスタイル”的質と広がりを体験した目利き達が2000年に求めるモノ、そのテーマが「リアライズ／自分へのまなざし」です。

=美意識の背景=

図-1



2000年

自己実現=リアライズ

自分への深いまなざしに基づく環境との新しい関係の構築

- “この世=おかしな世界”的顯在化の中、価値観は浮遊する自己がベースに
 - ・学校育成・援助交際・ドラッグ ⇔ 生きる価値の希薄化
 - ・ボケベル・ペル友・擬音会話・puffy ⇔ 感情をのせないコミュニケーション
 - ・ウォークマン・携帯電話 ⇔ 場(約束事)=共通認識の崩壊
 - ・カジュアルファッション・ストレッチ・生足・ビタT・ハイテクシューズ

社会システムのゆらぎと自分の物差しの形成

- ・'87国鉄民営化・'89ベルリンの壁崩壊・'90エコロジー意識の芽生え・'91バブル崩壊・'92消費不況・'93自民一党支配の終焉
- ・カウチポテト・オタク族・サラダ記念日・波カジ・紺ブレ

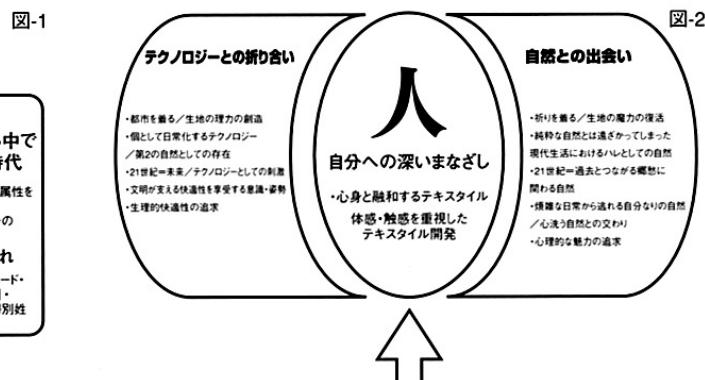
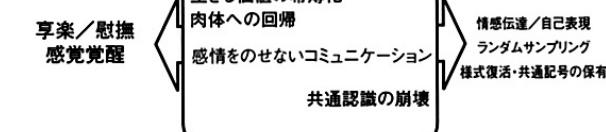


図-2
包含するテキスタイル=快適シェル
快適を生み出すテクノロジーの日常化が進行する2000年

人・共通認識の源としてのテキスタイル=自然
21世紀に向かって、共通認識・文様・様式の再発見いや、非日常化して行く自然との新たな関係を築く2000年



自分へ、自分へと收敛する意識は一方で拠り所を求める。それは、他人の視線でもなく、良識でもなく、おのれの身体を見いだす。肉体への回帰。それは現在の快適志向、カジュアル志向の源。

コンピュータ・ネットワークは世界をつなぎ、知識をつなぐ魔法の杖。でもその一方で、情感を、権威を、生活感を、もうもうの含みをそぎ落とす。CADもまた魔法の杖か。デザインの時間を、労力を減らしてくれる。でも、これもまた、形態や様式の背景にある、折りや生活、歴史、伝統をそぎ落としたり組み合わせ自在の積み木の一つにてしまふ恐れをもっている。